

# 福岡市合葬墓の開設とその背景 ～福岡都市圏と社会動態から～

榎 村 久 子

## はじめに

福岡市は九州圏の最も人口の集中地域で、中心都市である。政令指定都市の中で毎年人口増を続けている。人口の社会動態が特徴的で福岡都市圏と九州各県からの人口流入が多い。現在市立霊園に競技設計による合葬墓の開設が進められていて、2020年度に開設予定である。同市では墓地に対する市民ニーズと都市圏の霊園経営者アンケート調査を実施しており、現在の市立霊園と民間霊園の現状の両面から分析し、合葬墓の準備に至っている。

そのため筆者は同市立霊園の平尾霊園と、同都市圏にある民間霊園の1つの太宰府メモリアルパークの現地調査とヒアリングを行った。

これまで主として近畿圏と首都圏の墓地調査をしてきたが、福岡市の合葬墓開設への背景を調べることで、全国的に進む墓の無縁化、人々の無縁化社会が進む中で、墓の共同化、無形化、有期限化の具体的な在り方を、また無縁者の動向についても九州圏において把握する初めとしたい。

## I 福岡市の人口動態と福岡都市圏

### (1) 福岡市と福岡都市圏の人口

福岡市は九州圏で最も人口の集中地域で中心都市である。転入・転出はあるが、毎年人口増である。その人口と人口動態を見よう。

福岡市総務企画局企画調整部統計調査課の推計人口 2020（令和2）年1月1日現在によると<sup>1)</sup>、福岡市は面積343.46km<sup>2</sup>、人口総数は159万5674人、世帯数82万2290世帯。対前年同月比の増減を見ると、世帯数は1万4669世帯、人口

は1万3306人増加している。すべての区で増えていて、博多区と中央区、東区は高い。

福岡市は周辺隣接市と福岡都市圏を形成している。福岡市7区の人口は148万7970人、筑紫地区（筑紫野市・春日市・大野城市・太宰府市・那珂川町）は43万5254人、宗像地区（宗像市・福津市）は15万5779人、粕屋地区（古賀市・宇美町・篠栗町・志免町・須恵町・新宮町・久山町・粕谷町）は28万4174人、糸島地区（糸島市）は9万9877人。合計で福岡都市圏としては人口246万3054人、113万世帯である。

民間霊園の現地調査をしたのは、この中の筑紫地区の一霊園である。

## (2) 福岡市の人口は社会動態が特徴的

人口動態で特徴的なことは社会動態が大きい点である。福岡市推計人口(2019(令和元)年12月中)では、市外からの転入が4519人、市外への転出が4099人で、420人が増加している。一方、自然動態が出生1116人、死亡1058人で58人増加のみである。

福岡市は九州の拠点として、企業の支社などが置かれ、転勤で転入者も多く、“転勤で来て、転勤で帰る”と考えられるが、これは一定数と考えられる。

しかし特徴的なことは、九州各地から転入による社会増が多いことである。例えば宮崎県や鹿児島県など、バス4時間で福岡市内にショッピングに来る人も多いが、仕事を求めて転入する人も多いという。

地域別社会移動の状況を「まち・ひと・しごと創生 福岡市 人口ビジョン」<sup>2)</sup>(2015年)から見てよう。

地域別では福岡県内と九州内に対して大幅な転入超過になっている。福岡都市圏では、転入が1万2614人に対して転出は1万3268人で654人の転出超過。その他の福岡県内では転入1万717人に対して転出は7698人で3019人の転入超過。通勤可能な地域では市内から離れ、他の県内からは仕事で転入と考えられる。もっと大きな影響は九州他県と東京圏との転出入である。九州他県には1

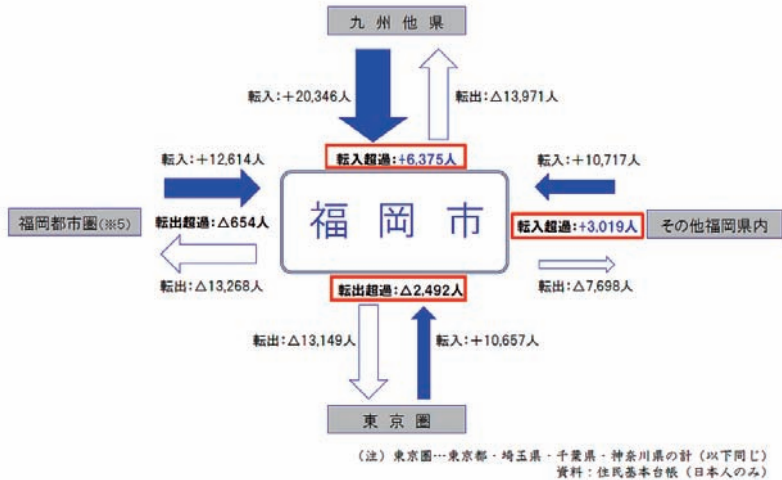


図1 福岡市の地域別社会移動の状況  
(出典:「福岡市人口ビジョン」福岡市、2015年)

万3971人転出しているが、転入は2万346人で転入超過は6375人。さらに東京圏との関係は、転入は1万657人あるが、転出も1万3149人で、転出超過になっている。つまり九州他県から多くの人たちが福岡市にやって来る。一方東京圏にも出て行っている。(図1)

年齢別にみると、15歳～19歳、20歳～24歳は大きな転入超過で、進学や就職で福岡市内に流入していると考えられている。東京圏との関係では、15歳～19歳、20歳～24歳は転出超過で、500人弱が高校卒業後に、また1000人以上が大学卒業後に東京圏に就職していると考えられている。

毎年の人口の社会増に、福岡市はオフィスの供給が不足しており、市役所周辺や天神地区周辺は再開発が予定されているという。また住宅開発も盛んである。

九州各地から福岡市に集まった人びとが、郷里に帰らない人が福岡市で永住し、墓所の需要が増えると予測される。しかし次世代、3世代がさらに福岡市から東京圏などへ転出した場合、墓所の継承者がいなくなる可能性が高い。大阪都市圏の大阪市設泉南メモリアルパーク、大阪府北摂霊園でも見られる。

### (3) 高齢化率と出生率 家族形態の変化 単身世帯の増加

少子・高齢・人口減少社会への対応では、福岡市は人口増加が続いており、現在は人口減少になっていない。

しかし、墓地・墓は人口の社会動態もあるが、自然動態の影響も大きい。

合計特殊出生率を見ると福岡市は1.25（全国平均1.39）（2010年）で、19の政令指定都市で16番目である。進学や就職で東京圏に若年世代が転出するが、若年女性の転出は今後出生数に影響し、転出数の男女比を見る必要もあるだろう。2021年には自然減になると予測されている。

一方、高齢化率は2015年で19.97%であるが、福岡市将来推計人口によれば、2020年23.4%、2040年には31.0%になる。高齢化では全国に比べて10年ほど遅れて進んでいるというが、今後30年で高齢者数は倍増すると見込まれている。

また家族形態の変化では、2020年には2人以上の世帯が39万3000世帯だが、単独世帯が39万9000世帯になると推計されている。中でも65歳以上の単独世帯が10万2000世帯と予測されている。

高齢者の単独世帯の増加は、墓参の困難や、生活や経済的な困難もあり、墓の無縁化だけでなく、孤独死など無縁者の死後の課題もある。

## Ⅱ 福岡市立霊園の現在の状況

### (1) 市立霊園の概要と位置

ではこうした人口動態や、市民の墓地へのニーズにどのように対応するのか。

まず市立霊園の現状から見よう。福岡市には公共（市立）霊園は3か所ある。2019（平成31）年3月31日現在では、①平尾霊園が最も古く1955（昭和30）年開設、区画数は4156で利用状況は3982区画。②三日月山霊園は1981（昭和56）年開設、2469区画で2460区画利用。③西部霊園は1990（平成2）年開設、4086区画で4081区画利用されている。

合計で公共墓地は10711区画あるが、既に10523区画が利用され、返還区画はわずか年間27区画あるが、ほとんどが利用されている。

表1 市立霊園概要

項目／霊園名称	平尾霊園	三日月霊園	西部霊園
開園年月日	S.30年10月1日	S.56年7月16日	H.2年9月27日
墓地の種類	普通墓地のみ	普通墓地のみ	普通墓地と芝生墓地
区画数	4,156区画	2,469区画	4,086区画
利用状況	3,982区画	2,460区画	4,081区画
返還区画	15区画	3区画	9区画
一区画の広さ	4～34m <sup>2</sup>	4m <sup>2</sup> 、5m <sup>2</sup> 、6m <sup>2</sup>	4m <sup>2</sup> のみ
霊園使用料	26万円／m <sup>2</sup>	17万5000円／m <sup>2</sup>	17万2000円／m <sup>2</sup>
霊園管理料（年額）	普通墓所：1000円／m <sup>2</sup> 、 芝生墓所：1200円／m <sup>2</sup> （西部霊園のみ）		
募集倍率（H.18～H.29）	59.1倍	18.8倍	27.5倍

（利用状況、返還区画数などは H.31年 3月31日現在の数値から作成）

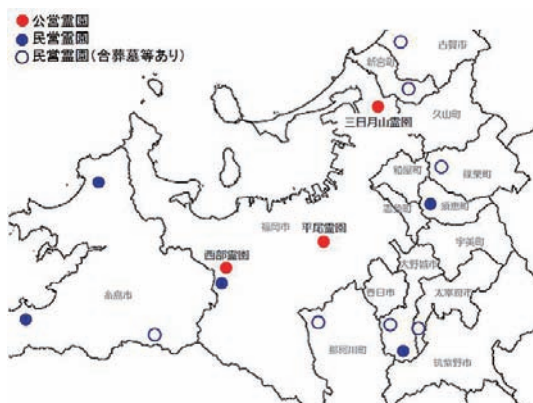


図2 福岡都市圏の市立霊園と民営霊園の場所

（出典：「福岡市立霊園合葬墓等基本構想」福岡市、2018年）

平尾霊園から三日月霊園の開設まで26年間、三日月霊園から西部霊園まではわずか9年間であるが、西部霊園以降30年間が過ぎている。（表1）

市内には市立霊園の他に民営霊園は1ヶ所しかなく、福岡都市圏では大規模な霊園は12ヶ所ある<sup>3)</sup>。（図2）

## (2) 現在の市立霊園の課題

市立霊園の現在の課題は、①具体的には霊園施設の老朽化、②管理料未納者への滞納整理、③利用者への利用区画の維持管理指導だという。

・具体的には、平尾霊園と三日月霊園や西部霊園で異なる状況がある。平尾霊園は古いが市の中心部にあり交通が便利、後の2つは同市の周辺部に開発され、交通不便で自動車で行くしかない。高齢化が進むほど墓参は難しくなっている。そのため墓所を返還して、民間墓地（寺院を含む）に移る人もいる。その手続きをしなければ、墓所は放置されて管理されず、管理料も未納になることがある。

・墓所の大きさと使用料も問題になっている。平尾霊園は一区画が $4\text{ m}^2\sim 34\text{ m}^2$ と大きく、使用料も $26\text{万円}/\text{m}^2$ であるが、三日月霊園は $4\text{ m}^2$ と $5\text{ m}^2$ と $6\text{ m}^2$ の3種類のみで、 $17\text{万}5000\text{円}/\text{m}^2$ 、西部霊園になるとすべて $4\text{ m}^2$ で $17\text{万}2000\text{円}/\text{m}^2$ である<sup>4)</sup>。

開発年次と墓所利用料の差がある。平尾霊園は開発当時と比べ、例えば $4\text{ m}^2$ の墓所で最低100万円超で墓石を建立すると、最低200万円～250万円必要になる。昔は大きな墓所が一般的であった。(写真1)(写真2)  $24\text{ m}^2$ の区画では墓所代が600万円超に墓石代を加えると、大変な高額になる。当初の利用者は当時1万円程度であったという。当時墓地周辺は宅地開発されておらず、土地も安かったためである。

近年は大きな墓所の申し込みが少なく、小さい区画の申し込みが増えている。大きな墓所は売れないので、新しいエリアで、 $2\text{ m}^2$ の小さな区画を準備している。

こうした3か所の立地の違いがあっても市立霊園のニーズは高い。そのため、平尾霊園は倍率が59.1倍、三日月霊園は18.8倍、西部霊園は27.5倍という高い倍率になっている。市立霊園は申し込んでもなかなか当たらない、当たっても経済的に建てられない人が多いという。1つの解決方法として小さな区画を造成し安価にして供給を増やしている。

こうした課題の背景は、大きな社会変化に伴って起きている。



写真1 平尾霊園の大きな墓所



写真2 平尾霊園の教会の墓所

### (3) 市の5年間の需要調査「市民アンケート調査」から

今後の福岡市の墓地・納骨堂経営のあり方を考えるため、「平成27年度福岡市墓地・納骨堂に関する市民アンケート調査」と、福岡都市圏における墓地・納骨堂の実態を把握するため、墓地や納骨堂の経営者に対しても「平成27年度福岡市墓地・納骨堂に関するアンケート調査」（福岡市保健福祉局生活衛生課墓地・葬祭場管理係）を実施している<sup>5)</sup>。同市は平成22年度にも実施していて、5年ごとに調査している。

まず市民アンケート調査を見よう。30歳以上の市民2000人を無作為で抽出している。

その中から市民の現状とニーズを探ってみる。

- ・同市に居住を継続する意向は、「できれば福岡市に住み続けたい」が86.1%ある。

- ・近隣でのお墓の新設の賛否について「計画内容によっては反対しない」30.6%、「作っても構わない」20.7%ある。近隣での納骨堂の新設について、「計画内容によっては反対しない」37.9%、「作っても構わない」29.1%と、67%が受け入れている。

- ・現在お墓や納骨堂の所有は、「持っている」人は66.9%、「持っていない」人は30.0%ある。では所有しているお墓・納骨堂の形態は、「寺院の納骨堂」



40.6%、「寺院のお墓」15.4%で寺院にある人が半数以上。その場所は、「県内」32.1%と「その他の地域」29.6%。

・過去1年間の参拝は「1～2回」が31.9%だが、3～4回、5回以上もあり、参拝回数が多い。

・先祖の墓や納骨堂を守る立場にあるかでは、「あると思う」人は57.3%あり、「ないと思う」人は30.6%。

・では新たなお墓や納骨堂の取得意向を聞くと、「現在は考えていないが、将来（20年以上先）は検討しなければいけないと思う」人は15.8%、しかし「20年以内には」「10年以内には」「5年以内には」「今具体的に考えていて2年以内には」と言う人は計15%いる。

・その理由は何だろうか。「現在利用できるお墓や納骨堂がないから、将来のことを考えて」が56.9%と半数以上ある。次いで「遠方にある遺骨を福岡市内に移したいから」16.1%、その他「現在利用できるお墓や納骨堂に入りたくないから」「現在利用できるお墓や納骨堂に不満があるから」と変更したい人、「現在遺骨があるが、利用できるお墓や納骨堂がないため」と必要に迫られている人もいる。

・では、新たに取得する希望形態として、「公営霊園」が48.6%と半数。次いで「寺院の納骨堂」38.1%、「民営霊園」15.6%など。新たに取得するものの最も希望する形態は、「公営霊園」34.9%、次いで「寺院の納骨堂」23.9%である。

・墓参には場所も重要な要素である。取得する場合最適な場所は、「市街地の交通の便のよい所」29.4%、次いで「市内の自然に恵まれた郊外」26.6%、「現在の居住地の近く」23.4%である。自宅からの距離（片道）は「1時間以内」45.0%、「30分以内」32.1%である。

・取得する場合に最も重視することは、「取得費や管理費など費用」が50.5%、「管理や運営の形態」16.5%。

・ところで希望する形式は、「納骨堂」が72.5%と最も多いが、「お墓」



35.3%、「合葬式の共同墓」30.3%で、お墓と合葬式の共同墓が競い合っている。合葬式の共同墓の具体的なイメージができていないように考えられる。そのため最も希望するのは「納骨堂」が48.6%で「合葬式の共同墓」17.4%となっている。

・やはり「合葬式の共同墓」の認知は、「聞いたことがある」32.4%だが、「知らない」人は42.1%ある。しかし、「やむを得ない」と考える人は34.7%いるが、「積極的に評価する」「関心を持っている」は両方で37.1%もある。

それでは福岡市が造った場合はどうだろうか。福岡市営の合葬墓の利用意向を聞くと、「利用したい」は35.1%で「分からない」は44.2%。

・現実的に合葬式の共同墓を利用したい理由は、「子どもや家族に迷惑をかけたくないから」が64.0%で最も多い。また「承継者がいないから」33.1%、「墓石を建立するのは高額だから」30.3%。(複数回答)

・では市営の共同墓を利用する際の条件は、「設置場所によっては利用したい」51.7%、「夫婦や家族で利用できるなら利用したい」50.6%、「お墓の形態によっては利用したい」38.8%。

・では形態は、「樹木葬式の合葬墓」が68.1%と7割を占める。「モニュメント式の合葬墓」は46.4%。具体的な設置場所は、「平尾霊園」42.4%、三日月霊園と西部霊園は少なく、それ以外の市内に新設は34.8%であった。

・散骨について賛否も聞いている。「本人(故人)の希望であれば認めても良い」は55.2%、「賛同する」は13.6%と多い。自分自身の散骨は、「希望しない」は35.4%あるが、「遺骨の全部の散骨を希望」する人は25.5%、「遺骨の一部を散骨し、残りは納骨を希望」するのは11.9%で計37.4%と、希望しない人と希望する人は半々である。

・散骨する場所の意向は興味深い。「玄界灘等の外洋」が22.6%と、福岡という地域の自然環境が捉えられている。「公営の霊園内の定められた場所」も13.0%ある。海洋での散骨が一般的だが、海外でも欧州の墓地では多くが墓地内に散骨場所が用意されている。今後日本の公営墓地でも考えていく必要もあ

るだろう。

・最後にもう一度市民に墓や納骨堂についての問題点を確かめている。「お墓や納骨堂を守る承継者がいない」35.3%、「お墓や納骨堂の管理が難しい」32.5%、「墓地・墓石の値段が高い」25.5%と「納骨堂の値段が高い」24.8%。市民の意識は承継者問題と管理の難しさと墓所の値段の高さに集約される。

(4) 福岡都市圏における墓地・納骨堂の需給実態―市の経営者アンケート調査から  
福岡都市圏における墓地・納骨堂の需給状況の実態を把握し、今後の墓地行政に役立てるために同市は経営者も対象に調査をしている。墓地・納骨堂を経営する福岡市内の275法人与同市近郊の113法人に対して「福岡市墓地・納骨堂に関する経営者アンケート調査」を実施。230法人から回答を得ている。

それによると、「宗教団体である」のは220、「宗教団体でない」のは5で、ほとんどが仏教系の団体。所在地は福岡市外が28で、1000区画以上の大規模霊園は12団体である。

今後求められている墓地の形態として、2方向に別れる。「合葬式の共同墓」32.6%と「一定期間後、合葬する有期限の墓地」22.6%という合葬墓の形態。そして一方は「夫婦のみとするなど個人需要を満たす小型の墓地」28.7%と「4m<sup>2</sup>未満程度の区画を持つ従来の日本式墓地」23.5%という個人需要の小型墓地の方向を考えている。(複数回答)

・経営者アンケート調査結果から、量的な供給については墓地は73法人が8万4185区画を保有。無縁化は765区画、未使用は1万8745区画、合祀用は894区画、拡張予定は1841区画。そのため今後使用可能な墓地の総区画数は8656区画としている。

納骨堂については、204法人、1000檀以上を持っているのは8法人で、計2万1216檀ある。未使用は1万6587檀、拡張予定は3565檀で、市民が使用可能なものは計1万737檀ある。

その結果、墓地は12.7年分、納骨檀は18.5年分の供給に相当する、と市は試



写真3 合葬墓の予定地

算している。

このような市民アンケート調査と墓地・納骨堂の経営者アンケート調査2つの結果から、承継者問題の解決、管理のしやすさ、墓所にかかる費用の安価、そして墓地の立地から、墓地と納骨堂のニーズに対しては民営霊園で提供が可能であり、公営霊園では合葬式の共同墓を時代の新たなニーズへの対応としたと考えられる。

さらに、市民のニーズが高い公営墓地で、交通の便利な場所として、平尾霊園に合葬式の共同墓の設置に至っている。



図3 平尾霊園の合葬墓の予定地

### Ⅲ 合葬墓の整備

#### (1) 経過 設計提案競技で選考

そこで、福岡市ではこうした近年の少子高齢化や死生観の変化などによって、新たな形態の墓地を求める市民のニーズが高まっていることを受けて、「合葬墓」を整備することにした。設置場所は市立霊園の平尾霊園の一角である。(写真3)(図3)

この合葬墓の整備に向けて、2018(平成30)年10月に、「福岡市合葬墓等整備設計提案競技」を実施している。「福岡市合葬墓等整備設計提案競技選考委

員会」が提案書の提出があった13作品を審査し、最優秀作品と次点の優秀作品を選んでいる。

最優秀作品は株式会社キノアーキテクツの提案で、「合葬墓を計画地に隣接する山と一体的につくるもので、豊かな自然に抱かれたお墓となっており、故人を偲ぶための新たな風景をつくりだすものです。鴻巣山の裾野に広がる平尾霊園の自然環境を生かした提案で、山や自然に向かって参拝する形式は様々な市民が集う合葬墓に相応しいと高く評価されました」とある。「また、日常的に利用される広場空間と非日常的な参拝空間が、休憩スペースとなる円弧状の壁により機能的にも景観的にも違和感なく区切られた計画になっており、その点も高く評価されました」<sup>6)</sup>と講評されている。

## (2) 合葬墓の特徴

設計提案競技による最優秀作品の主な内容は同市の発表資料<sup>6)</sup>から次のようである。

### ・基本コンセプト

多様な家族形態や様々な立場にある市民が安心して利用でき、家族や血縁等を越えて社会全体で供養できる墓は、誰しもの拠り所である自然の営みのうえに成り立つ。供養の場と公園広場が隣接するこの敷地には、非日常と日常の空間が隣接しており、背景にある山々の潜在的な力を引き出すことで、相反する世界が自然と共存できる合葬墓のデザインとしている。

### ・概要と規模

かつて平尾霊園を造成するために削られた山々。その緑を修復するように山裾を伸ばし、山裾の下に埋蔵室を埋めることで、故人は山々に抱かれながら眠るようになる。山裾に設けられた献花台と、献花台を囲む円弧状の壁の内側は、故人を偲ぶための非日常の場である。円弧状の壁の外側には、地域の住民が日常的に利用する公園広場があり、木々が生い茂っている。その広場から見えるのは山々の緑のみで、献花台は映らない。故人は山に抱かれて眠り、残された

人は山を目に故人を想い、故人に見守られながら山の広場で過ごすことになる。(図4)(図5)(図6)(図7)(イメージパースはノアアーキテクト提供)

・合葬墓の整備場所

平尾霊園の入り口付近のエントランス東広場のスペース。現況は北側に低い山地の斜面があり、東側は崖で低い場所には住宅が並んでいる。



図4 提案作品の全体イメージパース



図5 山裾の合葬墓の献花台のイメージパース



図6 円弧状の壁の外側の広場のイメージパース

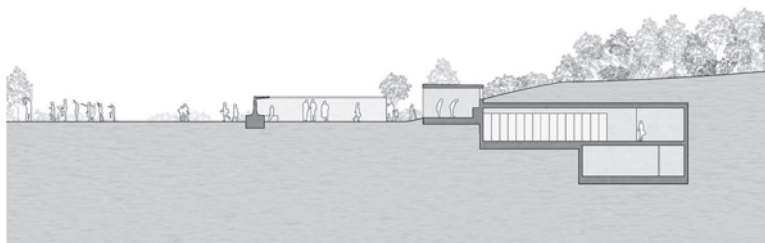


図7 合葬墓の断面図と参拝所と広場のイメージパース

#### ・合葬墓の概要

予定工事費と整備内容は、合葬墓・周辺整備等で約3億3800万円で、2019年2月に設計着手し、2020年4月頃工事着手、2020年12月頃竣工予定としている。

個別埋蔵室は、最大埋蔵可能数は6000体、合同埋蔵室は最大埋蔵可能数は3万6000体としている。

### (3) 福岡市立霊園における合葬墓に関する霊園条例改正について

この合葬墓は2020年度（令和2年度）に開設が予定されている。そのため条例で定める使用料や申込資格等のことを定める霊園条例改正案を2020年3月に改正案を提出している<sup>7)</sup>。

#### ・申し込み区分（埋葬方法）と使用料について

申込区分は埋葬方法を直接合葬と一定期間個別埋蔵後合葬の2区分。個別埋蔵期間は10年間、20年間、30年間の3区分。

その使用料は、直接合葬は6万4000円、個別埋蔵後合葬は10年間11万2000円、20年間16万円、30年間は20万8000円としている。使用料は、土地、建物、管理に要する費用を、それぞれの使用面積や使用期間に応じて算出している。合葬墓は年間の管理料は不要である。

#### ・申込資格と埋蔵対象者

合葬墓の申し込み資格は、福岡市に住所又は本籍がある人である。埋蔵対象



者は、申込者または申込者の親族（遺骨または生前申込）で、2名までとしている。

申込者の資格の特徴として、事実婚や福岡市パートナーシップ宣誓者を認めていることである。

事実婚やパートナーシップ宣誓者は住民票の続き柄に「未届けの夫」「未届けの妻」と記載されている。従来の家族墓所で、イエの墓や夫婦墓では、戸籍によるものが一般的であった。

#### ・市立霊園の返還―「墓じまい」のニーズに対応

合葬墓のニーズは、市立霊園の利用者の「墓じまい」のニーズに対応するためもある。墓の承継者がいない場合もあるが、承継者が福岡市・九州地域から他の圏域に移転した場合、承継者がいても自分たちは合葬墓を希望する場合などある。

そのため既に市立霊園の普通墓所や芝生墓所を所有する人については、直接合葬にかぎって一般申込区分と別枠で受け付ける。福岡市に住所や本籍が無くても申し込みができる。

また埋蔵されている遺骨に加えて、申込者（普通墓所や芝生墓地の利用者）と親族1人（計2人）の生前申込を受け付ける。つまり、親などの墓所を継承した人が、自分たちは継承者がいないか、いても継承が期待できない、いても自分たちの墓所の継承を望まない、また、配偶者の墓をもっているが、残された配偶者の場合など、墓じまいをしたい人たちの受け皿として合葬墓を考えている。

2020年秋に募集を開始する予定で、公募は年間600体としている。

#### (4) 市立霊園は指定管理者制度に移行

市立霊園に指定管理者制度を導入している自治体が増えている。同市では現在3霊園とも直営で、事務所や受付等は業務委託している。しかし今回合葬墓の開設を機に、墓地も2020年度から、合葬墓を含めた3霊園の管理運営を一括





写真 4 刻の森火葬場



写真 5 死産の子どもの慰霊碑

で公募により指定管理者制度を導入する。また、墓地の周囲は市の緑地（鴻の巣緑地）で、霊園担当の管理ではないが、霊園と一緒に指定管理にする予定である。

その理由として、火葬場は既に指定管理者制度を導入していること、3霊園一括でサービス内容が均等化し、経費が安くなることがあげられている。造園業関係の事業者が多いこともある。現在平尾霊園の入り口付近に新しい事務所（管理棟）が建設中である。

火葬場はすでに10年前から指定管理者制度に移行。同市<sup>ひばる</sup>桧原に「<sup>とき</sup>刻の森」火葬場がある。旧火葬場の後、新火葬場（26炉）を建設。建築家による設計でデザイン性も高く、煙突それぞれに煙感知の装置があり、環境にも良く、全国から見学者があったという。（写真 4）

敷地内には以前から「死産の子どもの慰霊碑」が沿道の途中に建立されている。火葬すればお骨は残らないためと言う。（写真 5）

#### (5) 無縁墓について

墓地の開設から年数が経過すると、また近年承継者の不在から無縁墓が増えている。同市では無縁改葬の受け入れ先となる施設がないため、利用者に利用許可時に承継予定者を指名させていて、その住所・連絡先について変更があれ

ば届け出ることとしている。

また、無縁者については保健福祉局保護課が対応している。生活保護世帯で一人の場合、市が葬儀者に連絡し、葬儀社が収骨して保護課に届け、同課が三日月霊園にある「行旅物故者之霊」に納骨している。（写真6）



写真6 「行旅物故者之霊」の納骨堂  
（福岡市提供）

#### Ⅳ 福岡都市圏の民営霊園 「太宰府メモリアルパーク」の事例

福岡都市圏の大規模な民営霊園はほとんどが市外にある。7つの民営霊園が合葬墓や樹木葬等、承継者不要、管理不要の墓所を設置している。

福岡市周辺の大規模民営霊園はどうだろうか。

福岡都市圏・筑紫野区（5市町）の太宰府市にある公益財団法人・太宰府メモリアルパーク（福岡県太宰府市大字大佐野字野口）はその1つであり、現地を訪ねヒアリング調査した。福岡市内から電車やバスで約30分の距離で、福岡市内から送迎バスも出ている。

同霊園は、丘陵地の上に造られた約19haの広大な敷地にある。周囲には、体育館や多くの運動施設が立地している。霊園は1988（昭和63）年に開設されて約30年が経つ。開設当初は互助会が経営していたが、その後2015（平成27）年新たに公益財団法人が経営している。同霊園19haの中に、開設から約30年間の経営のなかで、利用者ニーズの変化を読み取ることができる。その時々々の経済状況、市民の生活や価値観の変化、家族の変化に対応して、多様な墓所の形が形成されてきた、いわば“お墓の博物館”とも見ることができる。

同霊園は中央の道路を挟んで、大きくは2つの区画に分かれている。バスの発着所には管理事務所、その手前には法事等のお食事処の日本家屋、万葉歌碑。

中央道路を進むと里山を背景にしたシンボルタワーと、前面にウォーターロードとロータリーに噴水がある。

#### ・バブル経済期の大きなお墓

メモリアルアベニュー・自由墓地ロードのゾーンは大規模区画で大きな墓所が並ぶ。デザインも石材も、墓碑名も多様で、彫刻の森のようである。企業の社長、政治家の名前等もある。参拝に来ていた夫婦の話では、「家が一軒建つくらい」と言う。佐賀県から福岡に来たが、夫婦の1人は親が東京で墓は東京にある。この墓所は承継した後は五輪塔を残して、骨壺ごと合祀するという。「大きいので草抜きが大変だ」とも。「毎年星座堂のシンボルタワーの所でお盆の時に送り火供養祭などイベントもあり楽しみ。樹木葬墓地は最近増えてきたが、以前は無かった」と話す。

#### ・花樹木葬

近年のブームを受けて、花樹木葬を開発した<sup>8)</sup>。当初は従来の墓所区画の中に造られたが、現在は専用区画が造られている。樹木葬ははっきりした定義というものがないため、その形態は多様を極める。同霊園では、中心部に樹木1本を植え、周囲に個別の墓所を設置。

例えば「オペリスク・パティオ2」の区画では、永代供養タイプでは1人用65.41万円、2人用100.99万円。樹木葬は一般的に承継を前提としていないが、



写真7 樹木葬墓地

承継タイプもある。これは墓地・墓石と永代供養セットで145.64万円となっている。3人以上もある。年間管理料があり、13年間の使用期間の始まりは最後の人の納骨後となっている。新たに開発される樹木葬の区画により、デザインや利用料は異なる。(写真7)



写真8 納骨堂



写真9 永代供養合祀墓

#### ・納骨堂（「天空院」）

納骨堂「天空院」は1階はミュージアムと法要室<sup>9)</sup>。2階に「空」「海」「山」「虹」をテーマに納骨壇とその空間全体を各々の色調で整えられている。また展望サロンからは福岡市内と海まで見渡せる。一段式納骨壇では6人の遺骨が納められ、永代使用料は120万円と管理料は年間1万2000円である。管理料の一括払い制度は永代供養付き（35万円）で、使用期間終了後は同霊園が承継者となって、永代供養墓へ改葬されるシステムである。

やはり、これを支えているのが合祀墓の「星座堂」である。

家族形態の変化で夫婦など2人用の多段式納骨壇もある。使用料は65万円で年間管理料は8000円で、最終埋葬者納骨後20年間は同所に安置され、その後は合祀墓に改葬される。（写真8）

#### ・永代供養合祀墓（「星座堂」）

利用者がどのような墓所の形態を選んでも、最終的に合祀墓に入れられるというのが永代管理制度である。同霊園の要といえる。

樹木葬は承継者がいない場合、承継タイプのものでもいずれ承継者がいなくなることを前提にしている。「永代供養」と遺骨の合祀を支えているのが永代供養合祀墓「星座堂」<sup>10)</sup>である。（写真9）

「星座堂」は当初から合祀墓を希望する人の墓である。生前申込みでき、当

人の生年月により遺骨が納められる星座の場所が決まる。骨壺のまま安置され、一体35万円である。使用料、埋葬料、供養料、管理料を含む。

樹木葬の場合、最終埋葬者納骨後の13年後に、この合祀墓に合祀されるシステム。特に樹木葬でも承継タイプのものは、名前は樹木葬でも樹木の傍にある墓所と同じである。最終的に合祀墓に合祀され供養される、という安心感がある。

#### ・ペットと一緒に入れる墓（「ファミリー」）

最も新しい墓の形態である。これまでアクセス道路の途中に「太宰府ペットパーク」ペット屋内納骨堂がある。「ファミリー」は、見た時は人間の個人墓と見えたが、ペットと一緒に入れる墓である（写真10）。立派な彫刻に石材、デザインもさまざまである。「親が亡くなるのは順番だが、ペットは自分の育てた子、自分の子どもが死んだのと同じ」様だと言う。

#### ・利用者のニーズと対応

その他大きさも利用料も多様な家族墓所、クリスチャン専用墓所、バラの墓所等々ある。

開設の1988年から変化を見ると、継承者がいない、遠方である、子どもに負担がある、個人になってきた、家族観が変わってきたことが分かる。ここ数年増えてきたのは、「小さくても個人墓をと言う声。そのため小面積でたくさん



写真10 ペットと一緒に入れる墓

供給できるようにしている。利用者の方の墓を得たいという気持ちに込めている」という。また花樹木葬でも継承できる、永代供養が欲しい、ということで、継承者がいなくなれば合祀墓の星座堂に骨壺で移動し、さらに2段階で星座座の骨壺をさらに合祀する。それが利用者に喜ばれている、と言う。遺骨が埋葬後どの

ようになっていくか、見通せることが、安心感につながっていると考えられる。それには霊園の永続性が基本である。

樹木葬でも従来と同様の墓のシステムがとられているのは、小さくても個人の墓が欲しい、という福岡都市圏あるいは九州地域のニーズによるものなのかどうかは、わからない。

#### ・太宰府メモリアルパーク文化推進室

同霊園は、文化推進室があるのが特徴である。園地には、四季折々の樹木や花が多く植えられ楽しめる<sup>11)</sup>。また園内の周囲の見晴らしのよい所に「太宰府悠久の丘—メモリアルパークからの眺望—」は、夫婦桜展望台より博多湾までも一望する美しい景観として、2016（平成28）年「太宰府市民遺産 第12号」<sup>12)</sup>に選ばれている。また園内に万葉歌碑が16基あり、「万葉歌碑めぐり」<sup>13)</sup>ができる。

#### ・6 霊園で協議会

同霊園の利用者は、福岡市内から10%ほど増えているという。福岡都市圏で福岡市周辺には他の民営霊園もあり、公益財団法人の6 霊園で協議会を作っているという。福岡市では合祀墓を計画していると聞いていて、今後どのようにしていくか注視している。

## まとめ

以上、福岡市とその都市圏の社会動態から福岡市合葬墓開設の背景を見てきた。

福岡市は九州圏の人口集中地域で拠点都市であり、全国の政令都市でも数少ない毎年人口増加を続けている。しかし、福岡都市圏と九州圏の人口の社会動態から、九州各地から福岡市・同都市圏に集まった人々が福岡に永住し、墓地需要が増えている一方、次世代とその次の世代がさらに東京圏に転出し、墓所の継承者がいなくなる不安がある。

福岡市の市民と霊園経営者を対象にしたアンケート調査結果はその現実を示



している。そのため承継者問題の解決、管理のしやすさ、墓所にかかる費用の軽減の3つを求めている。その具体的な対応策として、現在目に多く見える形態として納骨堂が多く、墓は一般的な墓と合葬式共同墓の割合が競っている。これは「合葬式共同墓」の具体的なイメージができていなかったと考えられる。

その一方、樹木葬式の合葬墓への希望が多い。近年都市部の公立霊園でも樹木葬式共同墓の開設も見られ、その形態は多様であるが、市民の抱く3つの不安要素が無くなるという形態として考えられている。

福岡市が設計提案競技で選び現在建設中の合葬式共同墓は、霊園敷地の山や自然に向かって参拝する形式はこれまでにないが、樹木葬式合葬墓への市民のニーズに沿うものである。

民営霊園の訪問地は1つであるが、社会的状況や利用者の変化に応じた墓所形態の提供をしている。形態の多様性と量的な供給を民営霊園で対応している。この民営霊園の要は最も利用者が不安とする遺骨の最終的な行方を、どのような形態の墓所を選んでも最後は霊園によって合祀されることである。

現在の公立墓園のほとんどは、最初から合葬墓を利用する市民以外は最終的な合祀の場がないことである。今後公立墓園もこうした樹木葬式合葬墓や、最終的に合祀されるような仕組みを検討することが求められている。

## 謝 辞

福岡市の墓地調査に行ったのはコロナ禍の始まる2020年2月初めであった。その後コロナ禍の影響で再度福岡市に行くことができず、メールでのやり取りになった。年初から出したヒアリング事項や、市立霊園の現地の状況、また合葬墓の予定地、火葬場など現地に同行・ご教示いただいた福岡市住宅都市局みどりのまち推進部みどり運営課様に、また太宰府メモリアルパークでは施設や現況をご教示いただいた久芳直拓様、現在建設中の福岡市合葬墓のイメージパースの掲載を快諾いただいたノアアーキテクツ様に感謝申し上げます。



引用・参考文献

- 1) 福岡市総務企画局企画調整部統計調査課 (2020):「福岡市推計人口」
- 2) 福岡市 (2015):「まち・ひと・しごと創生 福岡市人口ビジョン」  
<https://www.city.fukuoka.lg.jp/data/open/cnt/3/51276/1/jinko-bijyon.pdf?20161027140852>
- 3) 福岡市住宅都市局みどりのまち推進部みどり政策課 (2018):「福岡市立霊園合葬墓等基本構想」  
[www.city.fukuoka.lg.jp/midori/gassoubou\\_kihonnkousou](http://www.city.fukuoka.lg.jp/midori/gassoubou_kihonnkousou)  
[https://www.city.fukuoka.lg.jp/data/open/cnt/3/65020/1/fukuokasiritureien\\_gassoubotoukihonnkousou\\_honnpenn.pdf?20180831131140](https://www.city.fukuoka.lg.jp/data/open/cnt/3/65020/1/fukuokasiritureien_gassoubotoukihonnkousou_honnpenn.pdf?20180831131140)
- 4) 福岡市住宅都市局みどりのまち推進部みどり運営課 (2018):「平成30年度福岡市立霊園利用者募集申し込みのしおり」
- 5) 福岡市保健福祉局生活衛生部生活衛生課 (2015):「平成27年度福岡市における墓地・納骨堂の需給状況について (アンケート調査結果)」  
[http://www.city.fukuoka.lg.jp/jutaku-toshi/koenkeikaku/midori/gassobo\\_competition.html](http://www.city.fukuoka.lg.jp/jutaku-toshi/koenkeikaku/midori/gassobo_competition.html)
- 6) 福岡市住宅都市局みどりのまち推進部みどり政策課 (2019):「福岡市合葬墓等整備設計提案競技の最優秀作品を決定しました」1月30日記者発表資料、「合葬墓について (補足資料)」
- 7) 福岡市 (2019):「福岡市立霊園における合葬墓に関する霊園条例改正予定について」12月
- 8) (公財) 太宰府メモリアルパーク 「花樹木葬」パンフレット
- 9) (公財) 太宰府メモリアルパーク 「納骨堂 天空院」パンフレット
- 10) (公財) 太宰府メモリアルパーク 「永代供養合祀墓 星座堂」パンフレット
- 11) (公財) 太宰府メモリアルパーク 「フラワーマップ」パンフレット
- 12) (公財) 太宰府メモリアルパーク (2019):「天空の楽園～メモリアル通信12月」
- 13) (公財) 太宰府メモリアルパーク文化推進室 「万葉歌碑めぐり」パンフレット

<キーワード>

墓園 合葬墓 共同墓 福岡市 都市圏